

バシャールからの情報によって作られたフラクタルパターンのピラミッド



(注1)バシャール(BASHAR)：1987年に初来日し、日本の精神世界・ニューエイジを信奉する人々の間に大ブームを起した米国人、ダリル・アンカがチャネリングしている地球外知的生命体。当時、チャネリングはシャーリー・マクレーンの「アウト・オン・ア・リム」などで一部の人には知られていたが、バシャールのチャネリングによって一挙に多くの人々に知られることとなった。オリオン座の方向にあるエササニという星に住んでいて、個人ではなく複数の意識が合わさったような存在とされる。

今では役員だけでも100名近くおられますし、世界10カ国以上に会員がおり、ネットワークが広がっています。2つ目は1997年に設立した超党派国会議員連盟「人間サイエンスの会」で、潜在意識に興味のある国会議員を中心に結成し、人の潜在能力を討論する場となり、163回も続いています。3つ目がこのIRIです。

——ピラミッドパワーを科学的に説明するという実験は画期的ですね。

坂本 「はい、『ハイパーテック・プロジェクト』という共同プロジェクトをIRIと2007年から始めています。

私がプロジェクト・リーダーになって、ピラミッドパワーについて主に2つの面から実験的に解明しようとしています。その一環として、小型のピラミッドを作り、私が被験者となって瞑想する実験も行っています」

——ピラミッドパワー

に山本先生も研究者としてご興味があったということですか？

山本 もちろんです。どのような分野でも、100年、200年と研究をすれば大抵の原理は解明できるのに、この世界だけは研究をしても原理がまったく分かってこないのです。ピラミッドパワーの原理も同じで、「何かのパワーが作用しているのではないか」と予想は立てられても科学的には原理が解明出来ていませんので、これは是非でも解明したいと思えました。もしも原理が解明出来ればノーベル賞を10個(笑)もらってもおかしくないほどに非常に面白い世界なのです。DNAもここ数十年でほとんどの部分が解明されているのにです。今までの科学の延長では解明できない世界だからこそ、挑戦する甲斐もある。既存の科学的知識でなく、発想の転換をしていかなないと原理に近づけない分野なのです。

ピラミッドパワーと瞑想のWパワーを計測

——ピラミッドパワーに関して、IRIでは2つの研究チームを組まれて実験されていますね。

坂本 はい、ピラミッドパワーの科学的解明のために、今現在、大きく分けて2つの研究実験を行っています。一つ目は、ピラミッドパワーによる発電、フリーエネルギー的な機能があるかどうかを実験しています。まだまだ実験途中です。で何とも言えませんが、将来的にフリーエネルギーの1つとして使えれば人類貢献、環境貢献できると考えています。

2つ目はピラミッドを使って生体(キュウリ)への影響を調べる実験をしています。ヘミシンクとの組み合わせによって人間の意識を上げていく、進化させていく方向でのピラミッドパワーの効果を実験しています。

実際に私がピラミッドの中で一定条件の下で瞑想をして、キュウリにどのような影響を及ぼすかを実験しています。

最初のフリーエネルギーの方は世一先生を中心に、キュウリは高木先生や世一先生、小久保先生を中心に実験チームを組んでいます。石の上にも3年といいますが、我々の実験はもう7年目に突入していますので、今後の結果に期待しています。

キュウリの実験結果は論文にも

なっていますが、フリーエネルギーの実験はまだどこにも出ていませんので、公に記事になるのは初めてです。

——今回のピラミッド構造のヒントは知的生命体として有名なバシャールからの情報とか？

坂本 はい、どのようなピラミッドを作ったらよいかのアドバイスが欲しかったので、バシャールのチャネリングメッセージをお願いしたところ、一辺が2mほどのピラミッドにフラクタルパターンをつけるとよい、そして、フラクタルパターンを作る素材は導電性のある金属がよい、そうすればエジプトのピラミッドと同じパワーが発生すると言ったので、その通りにピラミッドを作りました。

このピラミッドパワーを使って、古代エジプトでも電力を作っていたのかもしれないね(笑)。

瞑想者がいる時といない時でガス濃度が20%の差が！

——ピラミッドパワーによる生体エネルギーへの影響を調べる実験は具体的にどのような手法で行うのですか？

坂本政道◆MASAMICHI SAKAMOTO
モンロー研究所公式認定レジデンシャル・ファシリテーター。株式会社アクアヴィジョン・アカデミー代表取締役。東京大学理学部物理学科卒、カナダトロント大学電子工学科修士課程修了。応用科学修士。ソニー（株）にて半導体素子の開発、米国での半導体レーザーの開発に従事した後、変性意識状態の研究に専心するために2005年2月アクアヴィジョン・アカデミー設立。「体外離脱体験」(たま出版)、「死後体験」、「ピラミッド体験」、「あなたもバシャーロと通信できる」(ハート出版)、「バシャーロ×坂本政道」(ヴォイス)など著書多数。

山本幹男◆MIKIO YAMAMOTO
工学博士。医学博士。国際生命情報科学会 (ISLIS) 理事長。NPO法人国際総合研究機構 (IRI) 理事長。人間サイエンスの会世話人代表。元・放射線医学総合研究所の研究室長として様々な研究に従事し、PET開発にも成功。現在も人間の潜在能力を科学的に解明するための様々な独創的実験を行う研究者たちを取りまとめている。

河野貴美子◆KIMIKO KAWANO
工学博士。NPO法人国際総合研究機構 (IRI) 副理事長。国際生命情報科学会 (ISLIS) 副会長。人体科学会副会長。日本催眠学会理事。日本統合医療学会評議員。生理学的観点からデータの検討を担当。

小久保秀之◆HIDEYUKI KOKUBO
理学士。15年間出版社で理数系編集を手がけた後、放射線医学総合研究所の山本研究室における「多様同時計測による生体機能解析法の研究」に加わる。現在、NPO法人国際総合研究機構 (IRI) の研究部長、国際生命情報科学会 (ISLIS) の常務理事・執行編集委員、人体科学会理事などを兼務する。

高木治◆OSAMU TAKAGI
理学士。NPO法人国際総合研究機構 (IRI) 主任研究員。論文の筆頭著者。実験やデータ解析を担当。

世一秀雄◆HIDEO YOICHI
工学修士。放射線医学総合研究所の山本研究室における「多様同時計測による生体機能解析法の研究」に加わる。NPO法人国際総合研究機構 (IRI) 技術部長・主任研究員。実験装置開発や実験、データ解析を担当。

〈ウェブサイト〉

◆国際総合研究機構 (IRI)
<http://www.a-iri.org/iri-jp>
◆国際生命情報科学会 (ISLIS)
<http://www.islis.a-iri.org>
◆超党派国会議員連盟
人間サイエンスの会 (NS)
<http://NPO-IRI.org>
◆潜在能力サイト (SS)
<http://www.a-iri.org>
◆アクアヴィジョン・アカデミー
<http://www.aqu-academy.com/>

料として適していますので、当研究所ではキュウリを用いて未知のエネルギーを測定しています。

「意識」と「脳」を現代科学では切り離している

——河野先生は脳波測定のみで貢献されているのですか？

河野 見えない世界を科学という分野で証明するのは不可能だと思っている科学者、研究者はまだ多いですし、今の科学は「意識」というものを最初から排除してしまっているのです。

だからこそ、意識とは何か、意識がどのように物質に作用するのに興味がありますし、脳波だけでなく、べてが分かると思っていませんが、意識というものを計るためには脳波も重要なファクターだと思います。瞑想中の坂本さんの脳波

測定も何度も行っていますが、頭に電極をつけた状態では自然のリラックスした状態での測定のようになかなかありません。

ヘミシンクを聴いているときには深い瞑想状態になりやすいという事は脳波測定から見えてきますが、そういう意識状態が何にどのように作用しているかという明確な答えには辿り着いていません。ただ、瞑想状態のときは前頭葉が大きな鍵を握っているなど、いくつかの事柄は脳波測定から分かっています。

しかし、残念ながら、意識と言葉にしかただけで科学的でないといわれてしまうのがまだ現代科学の世界なのです。

——世一先生はフリーエネルギーを生み出す実験のグループに携わっていらつしやるのですか？

世一 そうです、キュウリの放電ガスを用いた瞑想実験よりも、こちらはなかなか難しく、すぐに結果は出ませんが、もしもピラミッドパワー

によってフリーエネルギーが生み出すことが出来たら、人類や環境に大きく寄与するものになるので、地道に根気よく実験を重ねていくしかありません。もう7年間も実験を重ねていますが、この世の役に立つ実験の多くは、実はとても長い年月をかけてコツコツと実験を繰り返してきたものもたくさんあります。ですので、好奇心と探究心は常に忘れずに、楽しみながら実験を続けていきたいです。

——将来的に山本先生はどのような構想を持っていらつしやるのですか？

山本 今は外部から寄付を募った

り、受託実験が多いのですが、将来は自分たちで収入源を作り、さらに人々の役に立てる事業を考えています。

具体的には、都心に癒しのビルを作りたいのです。たとえば、癒されたい人や疲れた人たちには上層階に住んでいただき、外来者も受け入れ、癒したい方々は下層階の店舗のテナントになって癒してもらいます。

統合医療クリニック、代替医療をはじめ、色々なヒーリングサロンにも入っていただき、総合的な癒しの拠点を作りたいのです。いかなれば、癒しの秋葉原(アキバ)ですね。利益が出始めたなら、この分野の研究をさらに深掘りするための研究者の人的費や研究費にも充てられます。そして、この世の中の役に立てる実験をどんどん行い、社会に貢献していきたいです。

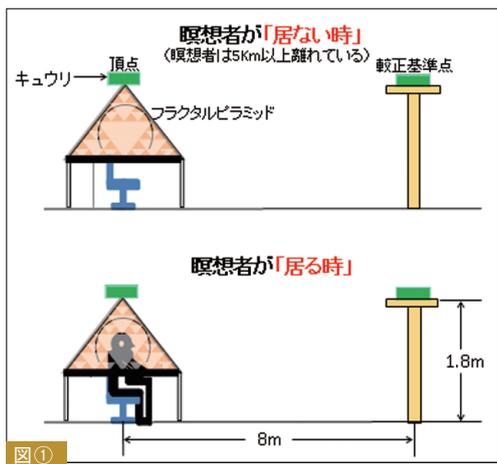
坂本 I R Iの中に作ったピラミッドの中に私が入り、ヘミシンクを聴きながら瞑想します。そのとき、ピラミッドの頂上にはキュウリを置いておきます。同様に私がいないとき(瞑想の前後)にも別のキュウリを置きます。キュウリから放出されるガスの量をそれぞれのキュウリで測定し、瞑想の影響を調べるのです。

高木 補足的に申し上げますと、坂本さんにフラクタルピラミッドの中に上半身を入れて、椅子に座り瞑想してもらいますが、そのピラミッドの頂点にはキュウリの切片を置いておきます。比較対象として8m離れた場所の同じ高さに

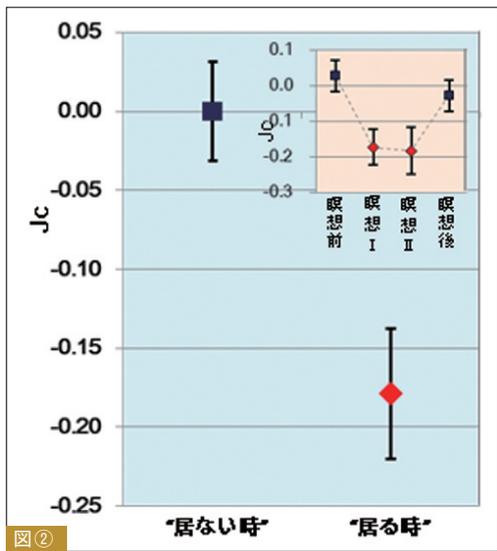
同じ高さのキュウリ切片を設置します(図①参照)。瞑想者がいない状態でも同じようにキュウリから放出されるガス濃度を調べます。そして、瞑想者がいる時、いない時で、キュウリのガス放出がどのような差異を生じるのかを測定していきます(図②参照)。縦軸はJcと呼ばれる数値を示しています。Jcの計算方法は、専門的になるので割愛しますが、注目すべき点は瞑想者がいる時といない時では、キュウリのガス濃度の差は約20%も変わるので

同様のキュウリ切片を設置します(図①参照)。瞑想者がいない状態でも同じようにキュウリから放出されるガス濃度を調べます。そして、瞑想者がいる時、いない時で、キュウリのガス放出がどのような差異を生じるのかを測定していきます(図②参照)。縦軸はJcと呼ばれる数値を示しています。Jcの計算方法は、専門的になるので割愛しますが、注目すべき点は瞑想者がいる時といない時では、キュウリのガス濃度の差は約20%も変わるので

——瞑想者がいることで、ピラミッドパワーが計れるということでしょうか？



図①



図②

高木 最初は全く瞑想者がピラミッドに入らずに、キュウリののみを使用してピラミッドパワーを調べていました。キュウリの置き場所も、フラクタルピラミッドの頂上やピラミッドの高さの三分の一のところなど様々な条件で実験をしました。しかし、データがまったく収束しない。その後、坂本さんが「じゃあ僕が中に入ってみましょうか」と言ってくれ、試してみ

ることにしました。ピラミッドパワーというだけなら人間は必要ないのではないかと思っていました。が、坂本さんが中に入り瞑想するようになったらデータがきちんと収束するようになってきました。ということとは、中に人間が入り、瞑想することで明らかに何かのエネルギーが発生しているということなのです。

小久保 瞑想者がピラミッドと何らかのエネルギー的交換をしているのは明らかです。ですが、まず瞑想者とピラミッドの関係をキュウリで計測する、という突飛な(?)手法を科学界に理解してもらわな

いとイケません。他領域の人たちは理解しにくいと思いますが、きちんとした科学的手法に則って緻密に実験を重ねた結果だということを知ってもらえれば、次の扉が開くはずですよ。

——以前、本誌(「H M W O R L D」2013年11月号)でも小久保先生の記事を掲載しましたが、ヒーリングパワーを科学的に計測実験するためにはキュウリが適しているのではたね?

小久保 そうです、色々な野菜を用いて実験を行いました。キュウリが最も安定した結果が出るようです。元々は気の力によるヒーリング効果を計測する方法を探しているときに、キュウリの生体細胞を使う方法(キュウリ測定法)が一番効果的であることを見つけたのです。植物を切断すると、一種の生体防御反応として、切断面からバ

イオフォトン(微弱な光)とガスが生じます。ですので、ヒーリングや気などのエネルギーを送った場合、キュウリの切断面からバ

イオフォトンやガスがより多量に生じれば、ヒーリングによる影響と判断できるわけです。他の野菜よりも測定しやすいことと、年間を通じて安定して入手できる野菜という点でも実験材

手できる野菜という点でも実験材